



平成 29 年 2 月 6 日

高大接続改革に関する意見

一般社団法人 公立大学協会



公立大学協会の高大接続改革に関する基本的な考え方

高大接続改革は、高大接続システム改革会議「最終報告」で明確に示された通り、高等学校教育、大学教育、及び大学入学者選抜を一貫した理念の下、一体的なシステムとして改革を推進するものであり、「学力の3要素」を基盤に、一人一人が主体的に多様な他者と協働してこれからの時代を創造していく力をはぐくむことができるよう、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜全体の在り方の転換を目指すものと受け止めております。

地域社会からの強い要請を受け、優れた教育を行い、有為な人材を輩出する責務を有する公立大学としては、今回の高大接続改革を、地域創生を担う人材の育成を推進するための新たな契機と受け止め、その実現に向け、責任を果たしていかなければなりません。

こうした認識の下、規模や設置団体によって多様な大学で構成される公立大学協会では、各地域における高等学校教育と大学教育との連続性に留意しつつ、多様な意見の集約を図りながら、課題の検討を行ってきたところです。ここでは、各地域の未来を担う世代が、学力の3要素を主体的に獲得し、将来の見通しを描きながら進路選択が行える環境づくりを担い多様な課題を持つ公立大学の総意として、高大接続改革、とりわけ現在検討されている入学者選抜改革について、以下に意見を3点述べさせていただきます。

1 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）に関する課題について

本改革で提案されている共通テストについては、その改革理念を社会に対し明確に示し、受験生や高等学校等の不安に配慮して、例えば記述式試験導入についても技術・運営レベルの議論を含め丁寧に進められてきている。特に国語の記述式問題について、パターン1（センターが形式面を確認、各大学が採点）、パターン2（センターが段階別表示、各大学が確認）の採点イメージが示されたことについては、困難な課題に対しての関係者の苦心の調整の結果として評価したい。

本協会としてはなお共通テスト全体について懸念の残る事項について、2つ

の観点から述べておきたい。

一つには、国語等における記述式試験の導入に関し、特に小規模大学において、採点者の確保、採点スケジュールの設定等に関し不安が大きいことから、それぞれの大学の判断により柔軟に活用可能な制度設計を行う必要がある。

今一つは、英語における資格・検定試験の活用など、段階的評価を含め新たな制度設計の検討が進められているが、その際、受験生の多様性、例えば居住する地域、家庭の経済状況、学習環境等に対する十分な配慮を要望したい。

2 各大学の個別試験における課題

公立大学の入学者選抜では、その教育の使命に即した公共性と、受験生の立場に立った公平性・公正性を両立させるために、従来より工夫と努力を積み重ねてきている。既に、多くの大学では小論文試験だけでなく、国語、数学、総合問題等の科目においても記述式試験を実施している。個別試験において、学力の3要素を重視し、各大学のアドミッション・ポリシーに即した選抜への改革をさらに進めていくためにも、大学への新たな負担増につながらないように留意が必要である。

したがって、各大学において、それぞれのアドミッション・ポリシーに基づく多様性を担保した入学者選抜を実現する制度として、今回の改革が促進されることを望みたい。

3 その他

入試改革は社会的な関心度が高い事柄であり、その影響は大きい。各大学において新たな入試システムを構築するためには、十分な時間確保及び必要となる資源についても留意した議論の展開を要望する。

また今回の改革には、「学力の3要素」に基づく多面的評価や、段階別成績表示などの導入が構想されており、受験生やその家族など、様々な関係者の理解と賛同を得ることが重要である。公立大学協会としては、これらの新たな選抜方式の開発に伴う検討課題の解決にあたり今後とも積極的な参画をはかっている。

以上